

木馬会会報 (第70号)

＊ 皐月賞特集 ＊



97/04/11

～木馬達の予想～

栄蔵の一番弟子 TP

◎…ランニングゲイル ○…メジロブライト ▲…セイリ्यूオー

△…ティエムトップダン、シルクライトニング、ビッグサンデー、ヒダカブライアン

～TPの屁理屈～

桜花賞から得た教訓は、まずライオン産駒はG1でも通用するという事。勝った馬が強かっただけである。もう一つはやはり今年の国内産はレベルが低いということ。外国産牝馬の1, 2を争うホッコービューティーを下し、トライアルのうち最もレベルが高かった4歳牝特を圧勝したキョウエイマーチが楽勝し、レベルの低かったチューリップ賞3着のドーベルが2着。それに肉薄したのが、着順は5着でも、上位3頭が外国産の1線級だったフラワーC組のホーネットピラス。トライアルの中でも一番レベルの低かったアネモネS組は惨敗。この事がそれを証明している。この教訓を皐月賞にも生かすべく、これまでのレースを振り返っていきいたい。

4歳になってからのオープン特別以上のレース(皐月賞有力馬が出走しているもののみ)を振り返ってみよう。ただ、牝馬路線とちょっと違うのは、牡馬の外国産馬は牝馬ほど強くないということだ(速く走ったことのある馬=強い馬ではない)。そうして振り返っていくと、

- ・若駒S…エリモ、ランニング以外は取るに足りないメンバー。少頭数だったこともあるし、メンツ的にも、2着と3着の着差が開いたことからレベルは低い。タイムはまあまあ。レベル1
- ・ジュニアC…これも少頭数。勝馬は展開の綾。勝ちタイムは平凡。レベル2
- ・きさらぎ賞…外国産馬が出走できるレースだったが、たいしたマル外はいなかった。勝ったヒコーキグモは1400までの馬であり、それに勝たれていることから、他はあまり強くもないのか。タイムはスローペースの割にマズマス。レベル3
- ・共同通信杯…その時点で考えられるほぼベストのメンバー構成。東の有力マル外も揃って出馬。レベルは最も高い。タイムも非常に良い。レベル5
- ・弥生賞…レベル的には共同通信杯に次ぐ。やはりトライアルの王道。勝ちタイムも良い。レベル4
- ・スプリングS…マイネルマックスの回避でレベルが落ちた。2番人気はダート圧勝のショウナンナバーだったこともあって、出走馬16頭のうち芝2勝以上はたったの2頭。ブライトがここを勝てなかったのは大きく不満。レベル2
- ・若葉S…芝2勝馬5頭。ブライトがいないと仮定すれば、スプリングSよりレベルは上。勝ったシルクライトニングも2勝の実力はあった馬。レベル3
- ・毎日杯…トップダンと1勝馬タマモプロモーターとローカル上がりの2頭で4番人気までを形成。タイムは平凡。レベル3

もう一点着目すべきはレース展開である。今年は逃げ馬がおらず、フジヤマビザンあたりが逃げるか、もしくはビッグサンデーやヒダカブライアンあたりの有力馬がハナを切ってしまうかというところだろう。それらの馬が引っかかるタイプではないため、ペースは必然的にS、Mペースに落ち着く。レ

ースは淡々と進み、3角過ぎからSペースを見越した有力馬達が動き出すとともに、馬場の良い内目を通る馬もそのコースを死守しようと動き出す。4角ではまさに団子状態で、外を回る馬は大きく外に振られることになる。このような場面で求められるのは中山向きの器用さと瞬発力勝負への適応性。

以上2つの着目点から、エリモはそのちいさな体、不器用さ、騎手河北でボツ。オースミサンデーはさらに不器用。しかもいままで武、ペリエといった超一流騎手が乗っていたからそれでも走れたが、今回は牡馬クラシックに縁がない河内。この馬もボツ。エアガッツは叩き台は叩き台と割り切る栗田厩舎所属なので、前走の敗戦はあまり考えなくてよいが、ホープフルSの勝時計があまりに悪いので、実はそんなに強い馬ではないのか、母の父ニホンピロウイナーの影響で1600ベストかとも思える。

さて、印をつけた馬の中で、やはりまずはブライトを取り上げよう。素直に見れば、一番レベルの高い共同通信杯を勝ったので一番強いのだろう。しかし、気になるのは、別に過去最低体重を記録したわけでもないのにそんなには気にしないでいいかもしれないが、前走の10キロ減。しかも、トライアル中もっともレベルの低いレースで取りこぼした事。ごちゃつかないように外を回ったといっていたが、本番に備えて馬込みの中でレースをすべきだったと思う。最近のレースはすべて大外を回っており、その不器用なレースぶりが命取りになる可能性がある。軸にはできない。といって今回のメンツなら、つまらないが対抗評価に落ち着く。ヒダカブライアンはそれまでの調教過程、毎日杯2着といってもレベルの低いメンツだからということを見逃してはいけない。しかし、もともと西の1番馬といわれ、鞍上も岡部に強化されたので、消せずに△。トップダンには堅実な成績を残しているが、かなり内にもたれるので、最内か大外を通らなくてはならず、結構不器用。ダービーの方が良いだろうが、うまく最内に潜り込むと恐いので△。シルクライトニングは渋いレースをするが、前走勝ただけでは、まだ役不足か△。ビッグサンデーは前走全くの横綱相撲。今回、ここ7年で4連対の南井に変わるのもプラス材料。しかし、私の記憶に間違いがなければ、G1に通用するSS産駒牡馬はすべて480キロ以上。460キロ程度のこの馬は、母キタノオゴジョがスプリンターだったことと、前走の勝ち時計と合わせ、やはりG1では足りなさそう△。セイリ्यूオーは実力は遜色なく、蛸名も共同通信杯時に暖かくなればもっと良くなると言っていた。3月に針を打って、楽させたのは辛いけど、ヒダカブライアンが順調でない以上、ブライアンズタイム産駒の中で1番強いと思っている。休んだが、気配はよさそうで、器用なレースぶりも加味して単穴に押す。

さてさて最後は、やはり思い入れたっぷりにランニングゲイル。父系的には弱いようだが、この馬の実力の多くを支配しているのは母系である。ニジンスキーの肌にミルリーフといった底力の固まりのような母系にタフで気性の勝ったランニングフリーを配し、下手すれば鈍重になってしまうところ、内国産特有の順応性が加味されてこのような産駒ができたのだろう。弥生賞のタイムも優秀だし、鞍上の意のままに動ける器用さも持っている。今回のような混戦(メンツ、レース展開的に)ではそれが一番必要ではないか。ランニングフリーが好きだったという最良目を差し引いても、勝つ確率は1番でなくても連対する確率は1番高いと思われる。また、前にも何かに書いたが、このレースで、武はおやじたちのハートをがっちり掴むはずだ。武にしては非常に地味な馬をパートナーに選び、その地味で、一見血

統的にも貧弱なランニングフリー産駒にG1を勝たせた騎手として、また一つ脱皮するだろう。ミーハー的な騒がれかたは、福永、幸四郎に受け継ぎ、ついに彼は万人に認められる超一流騎手になるのだ。さて、久しぶりに今週の提言。

武の騎手をつかめ!

う〜ん、いかんぞいかんぞ。どんどん回収率が下がっていく。去年一気にプラスに転じた皐月賞デー。今年も朝から行くぞ!!現在の回収率61.3%

おけら君の大予想

僕は、皐月賞の検討のために桜花賞を参考にしたいと思います。

桜花賞では、ダンシングブレーブ産駒のキョウエイマーチ、メジロライアン産駒のメジロドーベルで決まりました。キョウエイマーチの強さばかり目立ったレースでしたが、ドーベルは2着ではあったもののライアン産駒はG1で十分通用する、という結論を僕に与えてくれる内容であったと思っています。

次に、皐月賞の展開を予想すると、弥生賞で武ランニングゲイルが見せた作戦が大きな鍵を握ると思います。ランニングゲイルのジリ脚を、早めに仕掛けることでカバーした武の騎乗ぶりには、さすがの一言でした。皐月賞では、3コーナーでの武君の動きに合わせるように、後方からの馬も早めに仕掛ける形となり、後半は異常な程のハイペースになると予想します。すると浮上してくるのが、メジロブライト、エアガッツのライアン産駒となるわけです。長く良い脚を使うブライト君と切れ味抜群のAガッツ君(不発もあるけど)。まあ本命は器用なブライト君としても、今年の皐月賞はライアン産駒のワン・ツー、なんて面白いと思いませんか?

◎・・・メジロブライト、エアガッツ

△・・・ビックサンデー、ティエムトップダン、ヒダカブライアン

ミスターX

◎ティエムトップダン、メジロブライト

△ランニングゲイル、ヒダカブライアン、サニーブライアン

「強い馬は強い」そんな言葉がぴったりの桜花賞でした。千六までなら今のキョウエイマーチに勝てる4歳牝馬は存在しないでしょう。

さて皐月賞だが、恐らく鼻を切るのはビッグ。ということはハイペースは望めない。しかし、前走とは相手が違う。連に残れるほど甘くは無い。

そこで不安はあるが◎はトップダンとブライト。第一条件の「強い馬は強い」はクリアできるだけの実績と力はあるが、前者は屋根が和田君、晴れの舞台で今まで通りの騎乗ができるか・・・?だが、そこは考え様で和田君であれだけ走れば言う事無し。中間の気配も上々で、後は週末周期の悪天候とペースが緩んだ時の折り合いが鍵となる。後者は不安は悪天候のみ。前走は渋った馬場で尻から行ってどれだけ追い込めるかをまるで確かめるかの様な走りだった。ライアンの子なので渋った馬場の適正はGOODだが位置取りを間違えると消える恐れも・・・。

△には前走あっぱれな勝ち方をしたゲイル&豊。前走2着して益々上昇気配に加え鞍上強化のヒダカ。そして、前走裏切られたが相変わらず調教走るサニー。

これだけ買えば当たるでしょう。

誰だオースミなんてペリエに走らせてもらった奴を抜擢してるのは・・・。

ふえら

今回からはフロッピー投稿です。TP氏よろしくお願いします。

さて、皐月賞の予想に入る前に、ホクトベガに黙祷をささげます、やすらかにお眠り下さい。

僕がまだ駆け出しの頃、そう、カリオストロ城にゴート札の原版を盗みに入った頃だったと思います。カールに顔をペロペロとなめられている時に短波ラジオのイヤホンから「勝ったのはベガはベガでもホクトベガ!」と言うのがかすかに聞こえてきました。あの時、あなたの名前を初めて耳にしたのだと思います。あれからあなたのファンになったわけではないですが、ずっと気にはしていました。時が流れ、あなたが砂の女王として活躍しはじめてから僕もあなたのファンの一員となり熱いエールを贈り続けました。人間の欲でしょうか、それとも、神様のいたずらでしょうか、いたずらならあまりにもひどすぎはしませんか?この世には神も仏もないのか!と「乱」のピーターのように叫びたくなってしまいます。なぜ、ドバイにあなたは行ってしまったのでしょうか。そして、なぜ、なぜ、なぜあなたは速くに旅立ってしまったのか。あまりにも淋しくて悲しくて辛いじゃないですか。この淋しいニュースをファッションヘルスで聞いた自分を一生責め続けるでしょう。人は娯楽のために勝手に馬を繁殖させ、走らない馬は殺す。この行為を見かねた神様が、あなたを僕達人間から奪ってしまったのでしょうか。ホクトベガ、あなたは天馬になって自由に野を駆け、好きなようにたわむれ、そして眠っているのでしょうか。あなたの勇姿を忘れません。短い間でしたがお疲れ様でした。たくさんの夢をありがとうございました。さようなら、ホクトベガ。

さて皐月賞ですね。私は去年の朝日杯はものすごく低レベルだったと思っています。優勝したマイネルマックスは一応は評価していますが、他の馬は評価していません。ということでエアガッツなどは迷わずきります。ただ、騎手の上手さと、馬場の状態からランニングゲイルだけは△評価。それと先週の桜花賞の結果をみてやはり内国産馬はあそこまでかということでメジロブライトも△どまり。となるとやはり気になるのはSS産駒と、「東のスピードワールド、西のヒダカブライアン」といわれただけあって、前走底力を見せたヒダカブライアンを評価します。ローテーション的にはちょっときつい気はしますが、今年のこのメンバーならヒダカブライアン本命もおかしくないはず。そしてメジロブライアンをねじ伏せたビックサンデーも高評価。あと、忘れてはいけないのが今をときめく血統のティエムトップダン。プロ野球の方では、なんと我が阪神タイガースの調子が良く、春の珍事として巷で騒がれております。このまま週末の巨人戦も調子がいいと、皐月賞の方もローテーションの珍事としてヒダカ、ティエムのHTコンビで決まるかも知れませんね。

◎ヒダカブライアン ○ビックサンデー ▲オースミサンデー

△ランニングゲイル、メジロブライト、ティエムトップダン

追伸:ミスターXさん、最近予想がかたいんじゃないですか。何をそんなに恐れているのですか。情けない。

ライスシャワシャワ

ライスシャワのヨソウはよそう?

◎ ヒダカブライアン ○ オースミベスト ▲ メジロブライト

△ スターマイサドル、セイリユーオー、ビッグサンデー

先週の桜花賞。終わってみれば、道悪もなんのそのキョウエイマーチとメジロドーベルで堅く収まった。後ろからいくドーベルが届かずのシーンも想像できる馬場状態であったが、結局は2頭の力が抜けていたまで。

今週の皐月賞も終わってみれば、メジロブライト、ランニングゲイルの2頭が抜けていたということになるのでしょうか？ちなみに2頭の「力が」抜けていたのと、2頭が「掲示板から」抜けていたとの2通りを含ませているのですが...

弥生賞、スプリングS、若葉S、毎日杯の順に振り返りましょう。

まずは、弥生賞。このレースは、エアガッツがコケたこともあり、ランニングゲイルのひとマクリの印象が強いレース。確かに強い勝ち方であった。切れる脚がないこの馬にとって、スローの展開では、勝つにはあの乗り方しかなかったでしょう。武豊の好判断であり、さすがは武である。しかし、言ってみれば、あの乗り方は奇策であり、他の馬にしてみれば、してやられたというもの。さらにマークが厳しくなる本番で、もう一度あの手が通用するかと言えば、疑問である。武が動けば、今度は他の馬も一緒に動き出すはずである。それよりも、追い込んで2着した、オースミサンデーに魅力を感じる。サンデーにロジータという良血であり（良馬とも実際に活躍ぶりを見たわけではないが...）、姉であるシスターソノも見所のあった馬ゆえ、十分に期待のもてる馬である。ランニングゲイルとの3馬身はそう悲観するものではない。3着のサニーブライアンについては、紙面のスペースのこともあるので、言及しません。

スプリングS。ビッグサンデー、メジロブライト、シャコーテスコの順であったが、断然人気のブライトは、道悪のせいか追い込むも届かず。やはり良でこそ持ち味の生きる馬である。小回り、道悪、スローペースと条件が不向きであったのはわかるが、やはり勝って欲しかった。皐月賞というよりは、ダービー向きであろう。今年は昨年までの勢いが感じられなかったサンデー産駒であるが、クラシックの足音とともに、やはり有力馬が出てきた。これは、3才時から無理に使わず、4才から調子を上げていけばいいという、使い方によるものだろう。まあ、爆発力はあるが、消耗も早そうなサンデー産駒なので、当然の使い方をしていくまで。

若葉Sについては、人気薄の2頭で決まるレベルの低いレース。弥生賞3着ですでに権利をもっているとはいえ、サニーブライアンが勝てなかったのであるから、このレースの出走馬では、本番は参加するだけだろう。

最後に毎日杯。毎回惜敗のティエムトップダンが勝ち、骨折休養明けのヒダカブライアンが底力を見せての2着。ティエムよりも、ヒダカの激走に目を奪われた。急仕上げて、いいところ7分のデキということだったが、ゴール前脚が上がっていたにしても最後までティエムを抜こうとしていた根性はすばらしい。

前置きが大変長くなりましたが、結論に入ります。

本命はヒダカブライアン。休養明け、急仕上げて激走した反動は確かに気になりますが、使った上積みがあることも事実。新聞等では、前走後もさらに良くなっているらしいので、つまらない心配はしません。坂を過ぎて、叩き合いになれば、最後は根性がものをいうはず。岡部への乗り替わりでとりあえず、騎乗ミスは考えられず、自信の本命。

相手には、オースミサンデー。河内のテン乗りとキャリアの浅さが気になると言えますが、そこはベテラン。2着に負けたとは言え、切れる脚はあるので、小回りやスローペースに泣くこと

もないでしょう。おとし、昨年と皐月賞はサンデー産駒のワンツーで決まっており、今年もまたサンデーかということ。

3番手には、メジロブライト。まあ、実績からして、無印にはできないでしょう。この中間は、前走で10秒減っていた馬体の回復に重点がおかれたとすれば、強い調教を行うことができずに、結果として、追い不足なんてことも考えられる。そうなれば、上記2頭で十分負かせる。

以下、スタートに難があるが、素質はあると思われるスターマイサドル、中間筋肉痛で一頓挫あったにしても共同通信杯で復活の兆しのあったセイリユーオー、スプリングS勝ちのビッグサンデーを押さえる。

予想はウソヨ 四国の井崎

桜花賞はキョウエイマーチが圧勝でスカッとしました。

皐月賞は希にみる混戦で非常に楽しみです。タイム評価を示してみます。いつもは500万ベースでプラスマイナスを書いていたのですが、今回は非常にレベルが高いので900万ベースとしました。タイムベースは今年で3年目ですが、これほどレベルが高かった年はありません。大豊作です。こういう年は3冠レースで勝ち馬が全て異なるような気がしてなりません。

勝ち馬は1500万クラスの6頭から出るでしょう。エアガッツは残念ながら落選です。サイレンススズカが出ていないが、これも先週オープン級時計で楽勝している。ダービーには是非間に合っ

(1500万級)

シルクライトニング	-0.1	+0.8	+0.6	A
メジロブライト	+0.2	+0.5	-1.1	B
ランニングゲイル	-0.7	-1.0	+0.8	C
ビッグサンデー	-0.2	+0.8	-1.0	
フジヤマビザン	-2.2	-0.4	+0.6	
ショウナンナンバー	+0.1(ダ)	+1.4(ダ)	-2.0	

(900万級)

エリモダンディ	-0.7	0.0	-4.3	
オースミサンデー	-1.8	-0.2	+0.3	
キタサンフドー	-0.2	+0.1	-1.2	
サニーブライアン	-0.4	-0.3	+0.2	
セイリユーオー	-2.7	-0.5	+0.4	
ティエムトップダン	-0.4	-0.3	+0.3	
トニーザグレート	-1.2	-0.2	+0.1	
ヒダカブライアン	-1.2	-0.5	+0.2	

◎...メジロブライト ○...シルクライトニング ▲...ランニングゲイル

△...ビッグサンデー、ティエムトップダン、セイリユーオー、エリモダンディ

◎メジロブライトが勝った共同通信杯は最もレベルの高いレースであった。菅原の泰っさんに続けミッキー。先週のご祝儀で今週も応援するぜ。連軸としては最適でしょう。先週中山へ行きましたが芝の状態が悪い。力のいる馬場であり追い込んで届かずとなるかも知れない。しかし2着は外さないだろう。○シルクライトニングはタイム評価のAである。若葉ステークス組は無視できない。ローテーションがきついが逆にイケイケムードだ。調教もいい。本命対抗が勝負馬券となる。▲ランニングゲイルは前走は確かに強かった。しかし過去10年の記録をよく見ると弥生賞勝ちで皐月賞連対はサクラスターオーしかない。馬場悪化はこの馬にもマイナス。G1善戦ホースにしか過ぎないのではないかな？実力よりも人気になりそうであり評価を落とした。予想は一応3番手としたが、馬券ではティエムトップダンで3番手に取りたいと思っている。ビッグサンデーは母キタノオゴジョで応援したい。オークスではフラワーC負けたが、こいつに勝ったラングラクイーンを狙っている（出れるかな）。

今週は中山指定席券を譲って高松でグリーンチャンネル観戦の予定です。それでは皆さん頑張りました。

利口なTP 運がよければ…

今週は何が勝つんだかさっぱりわかりません。もうおてあげでグリコって感じ。下記馬の中から勝馬がでると思うけどね。

エアガッツ：前走は不利だらけだったので巻き返しがあってもおかしくはない。ただ余力があれば少なくとも4コーナーの不利は避けられていたはず。あそこでスッと抜ける脚がなかったということはG1レベルの馬ではないと考えられる

オースミサンデー：大好きだったあばずれロジータの子ども。前走を見る限り勝負が終わってからの追い込みということもあり、ランニングゲイルを逆転するまでには行かないであろう。ペリエから河内への鞍上弱体化は5馬身の不利

サニーブライアン：サニースワローがダービーで穴をあけたように、何かやりそうだなと昨年の暮れから思っていた。先行していつのまにかそのままなだれ込んで連に絡みそうな気もする。まるで前頭13枚目で13勝2敗くらいで優勝してしまう力士のように。まあ、冷静に考えれば少し足りないよね

ショウナンナンバー：私の個人的な考えとして、ダートだろうが道悪だろうがちぎって勝てる馬の潜在能力はかなり高く、芝のスピードレースにも対応できる、と思っている。だからこの馬がここで通用しても何の不思議もない。前走だって向上面でおりあいがかなければ、直線で止まらずに突き抜けていた可能性はある。ただ、あくまでも、たら、れば、の話であって坂でとまってしまったのが事実である

シルクライトニング：馬も好きだし騎手もひいきの安田(富)。結構応援しているがあまり馬券には結びついていない。堅実なのでここでもある程度の結果を見せると言うが堅実だけではクラシックには通用しないという意見にも一理ある

ティエムトップダン：レースを見ていて、『ここが』と指摘できるほど強烈な印象は受けないのであるが、半信半疑のままなぜか『強かったな』と思わせてしまう不思議な馬である。かつて(10年程度前)毎日杯の勝馬を無条件に対抗にしていたときもあった。最近では全然だめだが久しぶりに対抗にしてみようかな

ヒダカブライアン：毎日杯をみて一番強いと思ったのがこの馬である。あのハイペースをおいかけてたれなかった内容はすごいひとことである。確かに2走ボケ、前走の反動など気になることはあるが、鞍上に岡部を起用し勝負をかけていることだけは事実である

ビッグサンデー：前走のレースをみていて4コーナー手前でこの馬が勝つなど、確信できるほど楽な手応えでレースをしていた。道悪に助けられたとはいえメジロブライトを封じ込めた実績を無視するわけにはいかない。安定した成績、前につけられる脚がある事も有利である

メジロブライト：共同通信杯を見た時には本当に強いなおもった。脚質はライアンそっくりだが、相手をねじ伏せることができるという力強さがあるのでライアンよりはるかに上であろう。ただこれは府中や京都での話であって、今の中山でこの力を発揮できるかは疑問である。90%の力をだせば勝てると思うが

ランニングゲイル：弥生賞の勝ち方はハンパでなく強かった。でも皐月賞で同じ事をすれば惨敗とまではいかないが、恐らく勝てないであろう。しかしながら、皐月賞でも同じように3角まくりをせざるを得ないはずである。なぜなら、この馬は長くいい脚を使えるが、一瞬の抜け出す脚はない。従ってヨーイドンになる前に抜け出しておかなければ勝つことができないという欠点を持っているからである

と、いろいろぐちゃぐちゃ書いてはみたもののいまだに何がきてもおかしくはないし、なにが負けてもおかしくはない。運がよけりゃとれるし、というような状況だが大体運が悪いのではずれることであろう。こういうときは思い切って高配当を狙ってみたい。

◎ ビッグサンデー ○ ティエムトップダン ▲ ヒダカブライアン

△ サニーブライアン、シルクライトニング、メジロブライト、ランニングゲイル

馬券的には高配当確実なので他の馬にも少々流してみたい。

最後に、真剣に予想を書いていた私の横を、『私がしもやけで苦しんでいる頃、レースが終わった中山の空には夕焼けが写りはじめ、オヤジは家で酒を飲んでむねやけをしているのかなー。わかるかなー、わかんねーだろうな』と、訳のわからないことをつぶやきながら松鶴家ちとせ(漢字をわすれたー)がとうり過ぎていったことを付け加えておこう。

ホクトベガ追悼特別寄稿

眠れるジブシー女 ホクトベガ

10戦8勝 勝鞍：川崎記念、フェブラリーS、ダイオライト記念、群馬記念、帝王賞、エンプレス杯、南部杯、浦和記念

これが、96年のホクトベガの戦績である。今年からは中央・地方の統一グレード制が敷かれる。あくまで今年からの定義にすぎないが、それにあてはめると、GⅠ4勝、GⅡ3勝、GⅢ1勝である。

「NAR特別表彰馬」、「JRA最優秀ダートホース」

これが、96年にホクトベガに与えられた賞である。

私の憶測でしかないかもしれないが、なぜGⅠ2勝のサクラローレルが中央年度代表馬で、牝馬限定GⅠ1勝、GⅢ1勝のダンスパートナーが最優秀古馬牝馬で、アラブのケイエスヨシゼンが地方年度代表馬なのか。日本でだめなら世界で認めてもらおうというのが、陣営の意向ではなかったか。ホクトベガは走った。馬体重の変動が大きくても、どんな状況でも。そして常に勝った。そんな頑張り屋の彼女を世間に認めさせたかったのではないか。同じような境遇の馬に、以前、ダイナレター、カリブソングという馬がいた。彼らはダートで走り続けることさえできず、認めてもらうために芝で走らなければならなかった。今の時代でもダートで勝って何の意味があるのだろうか。「地方との交流」という言葉の意味はなんなのか、「ダート競走」とはなんなのか。私はJRAとNARに問うてみたい。そして、その答えが納得いくものになった時、その答えを殉死していったカリブソングとホクトベガに教えてやりたい。

ドバイに帰ったホクトベガ。日本に帰ってきたのは鬘のみ。遠い異国の砂漠の地に眠る彼女は何を見るのか。「不思議な力を持った馬」ホクトベガは果てしなく続く砂の荒野の中で眠ることを幸せに感じているだろう。そこではアンリ・ルソーの「眠れるジプシー女」のような色鮮やかで幻想的な夢を見ていて欲しい。

3歳から8歳まで、ホクトベガと厩舎関係者との関係は5年以上におよぶ。エリザベス女王杯で頂点に立ち、その後詰め甘いレースが続く。一度は障害入りさえも考えた(実際飛越は非常にうまかったらしいが、繁殖牝馬としての役割を考慮し、断念した)苦労の日々。ダートに目覚め、不死鳥のごとく輝きだした6歳以降。そしてついには世界の頂点への挑戦。苦楽を共にした関係者は彼女の死をどう感じたのか。急に崩れ落ち、後の馬にのっかかれたあの瞬間…。5年間という付き合いは短くない。実の家族よりも長く一緒に居た5年間。彼らの5年間は砂漠の中に眠っている。そしていつそこに行っても砂漠は怪しい光を放し続けるのだ。



「これが、僕にとっては、この世で一番美しくって、一番悲しい景色です。もし、あなたがたが、いつか砂漠を旅行なさることがあったら、すぐ、ここだな、とわかるように、この景色を良く見ておいてください。そして、もし、このところをお通りになるようでしたら、お願いですから、お急ぎにならないで下さい。そして、この星が、ちょうど、あなたがたの頭の上に来る時をお待ちください。その時1頭の牝馬が、あなたがたのそばに来て、漆黒の鬘をしていて、何を聞いても、黙りこくっているようでしたら、あなたがたは、ああ、この馬だな、と、確にお察しがつくことでしょう。そうしたら、どうぞ、こんな悲しみにしずんでいる僕を慰めて下さい。ホクトベガが戻ってきた、と、一刻も早く手紙を書いて下さい……」

97.4

第57回 皐月賞

21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
			サニ ブライ アン	ティ エム トップ ダン	シャ コー テスコ	ヒダ カブ ライ アン	エア ガッ ツ	ゴッ ドス ピー ド	キタ サン フド ー	ビッグ サン デー	ラン ニン グゲ イル	セイ リ ユ ー オー	メジ ロ ブ ライ ト	ティ エム キン グ オー	エリ モ ダン デー	オース ミ サン デー	ショウ ナン ナン バー	フジ ヤマ ビザン	シル ク ライ ト ニン グ	スター マイ サドル	馬名
			大西	和田	加藤	岡部	横山 典	石橋	芹沢	南井	武豊	蛸名 正	松永 幹	田島 裕	河北	河内	吉田	村本	安田 富	柴田 善	騎手
						▲	△			△	◎	△	○			△					トウメイ
				△		△				△	◎	▲	○						△		TP
				○		△				△	△	▲				◎			△		へなりん
						△			△	△	○		◎						▲		ドロンジョ
				△		△	◎			△			◎								おけらくん
			△	◎		△				△			◎								ミスターX
				△		◎				△	▲		○		△	△					YO
					△					△			△			◎			◎		メーブルズ
							○			▲			◎						▲		心配御無用!
				△		◎				○	△		△			▲					ふえら
						▲				△	○	△	◎			△					ラッキー
						◎				△		△	▲			○				△	ライスシャワー

桜花	皐月	天春	NHK	高松	オース	優駿	安田	宝塚	秋華	天秋	菊花	川女	マイル	JC	阪牝	朝日	S	有馬	717	桜花
トウメイ	○		◎																	
TP		○		○													☆			
へなりん			○	◎	○						◎									
ドロンジョ						◎					◎	○								
おけらくん		○												◎						
ミスターX			○	◎																
YO					○	○						○	○							
メーブルズ		○			○									◎						
心配御無用!		○																		
ふえら							○													
ラッキー																				
ライスシャワー																				
○…20倍 ◎…20~50倍 ☆…50倍~																				

先週はホクトベガとトウメイが死亡しました。ご冥福をお祈りいたします。トウメイは直接は知らないのですが、何かのビデオで見た、府中牝馬Sを62キロを背負って楽勝したレースの印象が強く残っています。その後、天皇賞、有馬を連勝し、年度代表馬に選ばれたのです。次号は、天皇賞・春特集です。